

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 大阪自動車整備専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人岡崎学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・ 通信制の 場合 | 実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数 | 省令で定める 基準単位数又 は授業時数 | 配置 困難 |
|--------|--------|-------------------|---|---------------------------|----------|
| 工業専門課程 | 自動車整備科 | 夜・ 通信 | 2435 | 80×2 =160 時間 | |
| (備考) | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

www.jidousha.ac.jp/publicinfo/itumuclasses2025.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 大阪自動車整備専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人岡崎学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

www.jidousha.ac.jp/publicinfo/lists2025.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|-------------------------------------|-------------------------|---------------------|
| 非常勤 | 株式会社エイユー 代表取締役社長 (1978/5/1～) | 2012/4/1～ 2027/3/31 | 経営計画の策定 |
| 非常勤 | 株式会社丸日運送 代表取締役社長 (2016/5/22～) | 2016/5/28～ 2027/3/31 | 経営計画の策定 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 大阪自動車整備専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人岡崎学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|--|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 | |
| (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) | |
| <p>自動車整備科は、自動車に関する整備、及び構造に関する理論と実施運用の技術を習得せしめ、優秀な自動車整備技術者を養成するために、自動車整備士実務経験が豊富な指導員により、基本から実践的な内容としている。</p> <p>学科・実習の評価に出席率を加味することで特に実習において作業内容の修得をたかめることを目的としてより実践的にしている。</p> <p>新年度時に学生全員に計画表の配布を行う。</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | www.jidousha.ac.jp/publicinfo/syllabus2025.pdf |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | |
| (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) | |
| <p>学習評価を行うために、履修科目について前期、後期各2回、計4回の定期試験と卒業試験を行う。</p> <p>1回の定期試験成績に対して、授業内容・提出物・出席率・授業態度を加味して科目評価を行い、50点以上を合格とし、評価得点によって次の5段階評価を学業成績として表す。</p> <p>(S) 85～100点 (A) 75～84点 (B) 60～74点 (C) 50～59点 (D) 49点以下</p> <p>D判定評価を受けた科目については、科目ごと1時間の補講を行った後、再試験を実施し、合格点を取ったものは(*C)として判定評価する。</p> <p>科目によっては期末試験のみを行うまた、筆記試験によらずレポート・作品・その他の考查方法によって評価を行うことがあり、卒業試験は後期期末試験を充当する場合がある。</p> | |

| | |
|---|---|
| <p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> | |
| <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学習評価を行うために、履修科目について前期、後期各2回、計4回の定期試験と卒業試験を行う。</p> <p>1回の定期試験成績に対して、授業内容・提出物・出席率・授業態度を加味して科目評価を行い、50点以上を合格とし、評価得点によって次の5段階評価を学業成績として表す。</p> <p>(S) 85～100点 (A) 75～84点 (B) 60～74点 (C) 50～59点 (D) 49点以下</p> <p>判定評価を行った科目ごとに評価配分率を算出。学年の平均評価配分率と科目の配分率を比較し、科目評価にバラツキが発生していないかを成績発表と合わせて表示する。</p> | |
| <p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p> | <p>www.jidousha.ac.jp/publicinfo/kyakantekisihyousansyutu2022.pdf</p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> | |
| <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校所定の過程を終了し試験に合格及び出席時数をみたしたと卒業判定において認定された者には、卒業証書を授与する。</p> <p>所定の過程終了 : D判定科目数が4科目を超えないこと 試験に合格する : 2級模擬試験の平均点が50点以上であること 出席時数を満たす: 授業時間(学科・実習及び一般)の90%以上を出席</p> <p>3月上旬に進級・卒業判定会議を実施し、留年・卒業延期と判定された場合は回復処置を受け、学業・出席率の回復を図る</p> | |
| <p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p> | <p>www.jidousha.ac.jp/publicinfo/sotugyouinintei2022.pdf</p> |

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 大阪自動車整備専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人岡崎学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|--|
| 貸借対照表 | www.jidousha.ac.jp/publicinfo/zaimu2025.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | www.jidousha.ac.jp/publicinfo/zaimu2025.pdf |
| 財産目録 | www.jidousha.ac.jp/publicinfo/zaimu2025.pdf |
| 事業報告書 | www.jidousha.ac.jp/publicinfo/zigyou2025.pdf |
| 監事による監査報告（書） | www.jidousha.ac.jp/publicinfo/kansa2025.pdf |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
|----------|----|---------------------------|----------------|-------|-----------------|------|----|--|
| 工業 | | 工業専門課程 | 自動車整備科 | ○ | | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | |
| 2年 | 昼 | 2188 単位時間/単位 | 814 単位時間/単位 | | 1369 単位時間/単位 | | | |
| | | | 単位時間/単位 | | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 210人 | | 173人 | 5人 | 10人 | 11人 | 21人 | | |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|--|
| <p>（概要）</p> <p>自動車整備科は、自動車に関する整備、及び構造に関する理論と実施運用の技術を習得せしめ、優秀な自動車整備技術者を養成するために、自動車整備士実務経験が豊富な指導員により、基本から実践的な内容としている。</p> <p>学科・実習の評価に出席率を加味することで特に実習において作業内容の修得をたかめることを目的としてより実践的にしている</p> <p>学科を24教科、実習を36教科、教養・一般・行事を13教科に区分わけを行い、1学科当りおよそ20時間・1実習当りおよそ30時間を1授業として授業を計画・実施している。</p> |

| |
|---|
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>(概要)</p> <p>学習評価を行うために、履修科目について前期、後期各2回、計4回の定期試験と卒業試験を行う。</p> <p>1回の定期試験成績に対して、授業内容・提出物・出席率・授業態度を加味して科目評価を行い、50点以上を合格とし、評価得点によって次の5段階評価を学業成績として表す。</p> <p>(S) 85～100点 (A) 75～84点 (B) 60～74点 (C) 50～59点 (D) 49点以下</p> <p>D判定評価を受けた科目については、科目ごと1時間の補講を行った後、再試験を実施し、合格点を取ったものは(*C)として判定評価する。</p> <p>科目によっては期末試験のみを行うまた、筆記試験によらずレポート・作品・その他の考查方法によって評価を行うことがあり、卒業試験は後期期末試験を充当する場合がある。</p> |
| 卒業・進級の認定基準 |
| <p>(概要)</p> <p>本校所定の過程を終了し試験に合格及び出席時数をみたしたと卒業判定において認定された者には、卒業証書を授与する。</p> <p>所定の過程終了 : D判定科目数が4科目を超えないこと 試験に合格する : 2級模擬試験の平均点が50点以上であること 出席時数を満たす: 授業時間(学科・実習及び一般)の90%以上を出席</p> <p>3月上旬に進級・卒業判定会議を実施し、留年・卒業延期と判定された場合は回復処置を受け、学業・出席率の回復を図る</p> |
| 学修支援等 |
| <p>(概要)</p> <p>スクールカウンセラーによる学生のサポート 少人数制による授業・習熟度別による授業 自動車整備業界に関連する各種資格取得 自動車メーカーによる技術講習 学内合同企業セミナー等</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|------------|-------------------|--------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 91人 (100%) | 0人 (0%) | 85人 (93.4%) | 6人 (6.6%) |
| (主な就職、業界等) 各自動車ディーラー整備職、自動車整備工場 | | | |
| (就職指導内容) 個別での履歴書・面接指導、各自動車メーカーによる技術講習 大型トラック整備工場見学会、学内合同企業セミナー等 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) 2級ガソリン自動車整備士、2級ジーゼル自動車整備士 2級二輪自動車整備士 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--|----------------|------|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 195人 | 18人 | 9.2% |
| (中途退学の主な理由) 学校生活不適應、進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 欠席率の高い学生への面談・保護者との連携、欠時補講等 | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考（任意記載事項） |
|--------------|----------|-------------|----------|------------|
| 自動車整備科 | 150,000円 | 520,000円 | 670,000円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| 修学支援（任意記載事項） | | | | |
| | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|--|------------------------------|-----|
| 自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) | | |
| www.jidousha.ac.jp/publicinfo/zikohyouka2025.pdf | | |
| 学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) | | |
| 関係企業、卒業生、在校生保護者等で構成されており、教育カリキュラム、授業内容のわかりやすさ、卒業後を見通した進路指導、学校内の施設・設備は安心・安全かなどアンケート形式で実施している。アンケートの結果を踏まえて、学校長を筆頭に教職員一丸となり毎年度改善を行っており、学校の質の向上に取り組んでいる | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 大阪ダイハツ販売株式会社 | 2022/4/1～2027/6/30 (任期更新) | 企業 |
| 竹菱自動車株式会社 | 2022/4/1～2027/6/30 (任期更新) | 企業 |
| 学びリンク株式会社 | 2022/4/1～2027/6/30 (新規就任) | 企業 |
| 無職 | 2022/4/1～2027/6/30 (任期更新) | 町会長 |
| 関西大学職員 | 2022/4/1～2027/6/30 (任期更新) | 大学 |
| 黒田寺副住職 | 2022/4/1～2027/6/30 (任期更新) | 卒業生 |
| 正定寺住職 | 2022/4/1～2027/6/30 (任期更新) | 卒業生 |
| 学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) | | |
| www.jidousha.ac.jp/publicinfo/questionnaire_evaluate2025.pdf | | |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) | | |
| | | |

c) 当該学校に係る情報

| |
|--|
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) |
| www.jidousha.ac.jp |

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------------------|---------------|
| 学校コード (13桁) | H127310001664 |
| 学校名 (〇〇大学 等) | 大阪自動車整備専門学校 |
| 設置者名 (学校法人〇〇学園 等) | 学校法人岡崎学園 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|---------------------|------|-----|-----|-----|
| 支援対象者 (家計急変による者を除く) | | 26人 | 25人 | 28人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 14人 | 12人 | |
| | 第Ⅱ区分 | - | - | |
| | 第Ⅲ区分 | - | - | |
| | 第Ⅳ区分 | 0人 | 0人 | |
| 家計急変による支援対象者 (年間) | | | | 0人 |
| 合計 (年間) | | | | 28人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | | |
|---|---------|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 人 | 0人 | 0人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下) | 人 | 0人 | 0人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 人 | 0人 | 0人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 人 | 0人 | 0人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|---|---|----|-----|----|
| 年間 | 人 | 前半期 | 0人 | 後半期 | 0人 |
| (備考) | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|---|
| 3月未満の停学 | - |
| 訓告 | - |
| 年間計 | - |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | |
|---|---|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下) | 人 | 0人 | 0人 |
| GPA等が下位4分の1 | 人 | - | - |
| 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況 | 人 | 0人 | - |
| 計 | 人 | - | - |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。